

潜

オ

西表

ブ ラ ン ド

Dive into "OGAN", Iriomote Island

Photo & Text = **Takaji Ochi**

Special Thanks = **Diving Team Unarizaki Iriomote**

Design = **PanariDesign**

入

ガ

ン

西表島と言えば「やっぱりオガンでしょう」。
そう答えるダイバーは多い。
しかし、西表島から20km離れた、孤岩礁のために、
天候に左右されやすく、うなりざき西表でさえ、
年間70回程度しか潜りに行けない。
「オガンダイビング」を熱望しながら、
なかなかその夢をかなえられずに通い
続けるダイバーも多いそうだ。
そんなダイバー憧れの海、オガンに潜入！
今回の取材では、徹底的にオガンを潜りまくり、
その魅力に迫った！

!!

銀色にテカる巨体、 マグロの編隊



ゆっくり水深を上げ
て、イソマグロの群れ
に接近を試みる

エントリーと同時に、眼下のブルーウォーターに銀色のボディをテカらせながら、悠然と泳ぐ巨大な魚の群れが目についた。これがオガン名物巨大マグロの編隊だということは、すぐに気がついた。その数大小合わせて約100匹。

先頭を行くのは、編隊の中でも一際巨大なマグロ。それに従うように、何匹ものマグロが隊列を組んで流れに乗って泳いでいる。しかし、なかなか側に近よることはできない場合が多い。マグロたちがシャイであるとかそういう意味ではなくて、流れが強く、大抵の場合は、根に捕まって下から仰ぎ見る事になるからだ。

群れを横目に見ながら、まずは潜行して、根の先端に捕まり、自分が流されてしまわないように、ベストポジションを確保。あとは、マグロたちが接近して来てくれるのを待つだけだ。

大物との遭遇率NO.1の3の根

3の根は、仲之御神島、通称「オガン」の西10kmに位置する、いくつかの隠れ根の集合体。ダイビングポイントとしては、広範囲に点在する岩礁の流れに乗って移動しながら、マグロやバラクーダ、ツムブリ、そしてカスミアジなどの群れや、大物との遭遇を期待するダイビング。過去にジンベエザメやタイガーシャーク、ハンマーヘッドシャークなどの大物との遭遇もあるという。

しかし、この3の根、相当に潜るのが難しいポイントで、うなりざき以外のショップは、ほとんど皆無と言って良いくらいに潜ってはいない。「地形を把握して、自信を持っ



01



02



03

01 激流の3の根に潜行！先陣を切ったダイバーたちの吐き出すエアーが視界を遮る。撮影は困難を極めた。02 境界線の根の上を悠然と通過するイソマグロの編隊。03 大物を求めて隠れ根へと移動する。04 ガイドは皆無すくめ、森脇君を確認するには、フライングに描かれたマンタの絵が目印になった。



04

て潜れるようになるまでに、3年はかかりました」とガイドの森脇純一君が教えてくれた。自分が最初に潜った時も、はっきりいって、どこをどう潜っているのか、すぐに把握できる地形では無いと感じた。

そういう意味では「オガン＝西表島ブランド」だけど、「3の根」に関して言えば「うなりざきブランド」と言っても過言では無いのではと感じる。そして、うなりざきのリピーターが一番潜りたがるのも、この「3の根」だ。

うなりざきでは、この3の根にある複数の隠れ根のいくつか、名前を付けている。南東方面から、北西方面へ向かって、「霞ヶ関」、「浅い根」、「マグロたまり（たまり）」、そして「限界」。

上げ潮時は、霞ヶ関側から、たまり側へ流れるために、霞ヶ関から入って、浅い根、たまり、そして可能であれば潮を横切って限界へと流すことが多い。この上げ潮時、限界の根の南東端にマグロが群れている確率が高いのだそうだ。

逆に下げ潮時には、たまり、浅い根側から潮が入り、霞ヶ関へと抜ける。下げでは、浅い根とたまりの間にマグロが群れる事が多いとのこと。そうは言っても確実ではない。「見れない時は、何も見れません。それに、天候が良くてオガンに行けても、流れがきつくて、潜れずに引き返すこともあります」そう言って森脇君が苦笑した。

今回のロケでは、5月のGW後で、オガンに行ける確率が上がり始める時期。それもあったのか、7日間の滞在で何と5日間もオガンに潜りに行くことができた。本数にして、合計14本。1日も行けないかもしれないと言われたことを考えれば、本当に運が良かったのかもしれない。

狙いは、 カスマアジの群れ

ほぼ定番のマグロの隊列、偶然の大家との遭遇と違い、この3の根でダイバーたちが熱望するのがカスマアジの群れとの遭遇だ。おそらく産卵のためだと考えられるが、新月周りには、このカスマアジの群れの規模が拡大するという。

「今回の狙いはこのカスマアジの群れ」しかし、その群れに遭遇するのは、なかなか至難の技でもあるようだ。「確率にして、3割程度」の遭遇。それだけに、オガン好きのダイバーにとって、この群れに遭遇することは一つのステイタスでもある。

そのカスマアジの群れにも、今回は運良く遭遇することができた。通常のダイビングスタイルでは多分遭遇はできなかったかもしれない。しかし、ガイドの森脇君の感と経験、そのおかげで今回このカスマアジの群れとの遭遇を3回も経験させてもらった。3の根ダイビング7本中3本の遭遇だから、これは相当ラッキーなのかもしれない。

しかし、特に2度目の遭遇では、本当にまるで壁のようにカスマアジが海中を埋め尽くしていた。その数、1000匹は下らないだろうという数。ある程度距離を詰めると、タイミングを見計らって、森脇君が激しくベットボトルを叩きまくる。その一瞬の間、カスマアジたちはこちらに向かってきて、僕たちを取り囲んだかと思うと、泳ぎ去って行った。追跡を続けると、そこにマグロの群れ、ツムブリの群れ、そしてバラクーダの群れがコラボしてきたのが見えた。

「撮りたい！」そう思って再度のアプローチを試みたが撮影はかなわなかった。それでも、これほどのカスマアジの壁を見た事は、過去に無かった。興奮と感動の一瞬だった。

1000匹を超える
カスマアジの群れが、
目の前に壁のように
立ちだかつた。鳥
肌が立つ程の興奮
だった。



西表からオガンに向かう。その勇姿が徐々につきりしてきて、ただで、なんだかワクワクしてくる



西表ブランド、
オガン、
潜入!!

オガンには、3の根以外にも、東の根、天馬崎、洞窟ポイント、光の宮殿などのポイントがある。大物、群れ狙いにかけては、3の根だが、東の根の切り立った壁状の迫力ある地形、天馬崎の海中の雰囲気も興味を引かれる。もちろん、マグロの群れはこのどちらでも定番として見られる可能性は高い。

ツムブリや、ウメイロモドキ、ヒメテングハギとテングハギモドキなどの群れが突如群れてダイバーを取り囲み、しばらく渦のように旋回して泳ぎ去って行くこともある。

「天馬崎の地形が好き」というリピーターも多い。フラットな海底に、点在する四角い岩が連なっていたり、洞窟があったり、砂

地に基石状に根が点在していたり、垂直に切り立った岩礁があったり、確かに、

ダイナミックな地形、癒しの空間

これほどバリエーションに富んだ表情を見せてくれるポイントも珍しい。このポイントでも時に100以上のマグロの群れが見る。昨年には、日本では絶滅危惧種に指定されている、カンムリブダイの群れにも遭遇した。



洞窟ポイントの内部は、まるで中世ヨーロッパの城内のような荘厳さ



02



03

01 今年から、うなぎざき西表のメインガイドをつとめることになった。森脇君
02 東の根では、ツムブリの大群に遭遇した
03 オガンのポイントを潜る前には、かならずガイド同士でどうするか話し合いが行なわれていた
04 写真ではわからないけど、夏に向けて、徐々に島の上にはカツオドリたちが巣作りを始めていた



04

Dive into "OGAN", Iriomote Island
2012 Early Summer [Iriomote Island]

西表島の
オガンの
潜入口!!

光のシャワーに包まれる、 癒しの空間

光の宮殿では、劇場のスポットライトの中を泳いでいるような美しい光に包まれた

Dive into "OGAN", Iriomote Island
2012 Early Summer [Iriomote Island]



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.unarizaki.com/iriomote/>

関連情報HPへ



01



02



03

01 東の根の林立する巨岩の間の狭い空間に入り、イソマクロの群れの通過を待つ

02 上から眺めると、なんとも奇妙な形をしている東の根の巨岩。地震で活断層にヒビが入ってしまったのかな

03 天馬崎の終盤、砂地に巨大な丸石のような根が点在している不思議な光景に出会う

04 東の根で出会った巨大なロニンアジ

05 オクトをフロートさせてボートに浮上の合図を送る

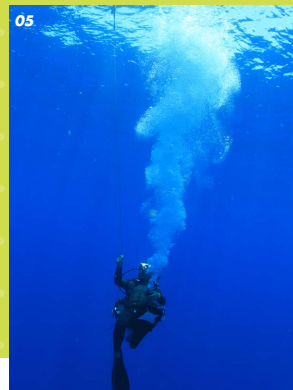


04

洞窟ポイントは、横穴から抜け出たガレ場でマクロ探なんて事も。すぐ近くには、階段状の地形もあり、遺跡チック。

光の宮殿は、天気の良い時に潜ると、洞窟や狭い切り通しの中に太陽の光の筋が差し込んで、荒々しく男っぽいオガンの印象とは違う、優しく、美しい表情を見せてくれる。

個人的には、今回初めて潜ったこの光の宮殿が気に入った。天気が良いときに限定されるけど、この宮殿に差し込む光は本当に美しい。できることなら、もう少し時間をかけて撮影をしたかった。



05



突然姿を見せたバラクーダの群れ

まだまだある、 +aオガンの魅力

西表
オガンの
潜入ポイント



東の根では、皆がこ
うやって根トップに
しがみつき、群れや
大物の登場を待つ



楽しいダイビングの後はゲストと一緒に記念撮影

西表島
オガンのダイビング
入る!!

うなりざきで 充実のダイビング・ステイ



湾内には、うなりざきのカラフルなボート群が目立つ



01

01 ボートまでは、ゲストも一緒に、筏のロープを引っぱって移動する
02 イルマーレうなりざき、ヴィラうなりざきと、宿泊施設は充実している
03 船上から望む、イルマーレうなりざき
04 若くて明るく、頼もしいメンバーが揃う、うなりざき西表のガイド陣

オガンに行くなら、うなりざき! というほど、オガンでのダイビング回数が多い、うなりざき。西表島最大の規模を誇る老舗ダイビングサービス。若くて西表でのガイド経験が豊富なスタッフが揃っている。ジェット推進機を搭載した62フィート、定員各約40名。温水シャワー、水洗トイレを完備した大型ボート3隻と定員16名、42フィートの小型ボート1隻の計4隻を駆使して、多くのダイバーのレベルやニーズに合わせたダイビングを提供してくれる。宿泊施設もイルマーレウナリザキ、ヴィラと充実していて、快適なダイビングライフを満喫することができる。



Diving Service

ダイビングチームうなりざき西表

〒907-1541 沖縄県八重山郡竹富町字上原10-172
Tel.0980-85-6146 Fax.0980-85-6844
<http://unarizaki.com/iriomote>



02

Stay イルマーレうなりざき

2007年4月にオープンした全室オーシャンビューのダイバーズリゾート。シングルルーム22室、ツインルーム18室の全40室。一人で訪れるダイバーが多いことにも配慮している。全室、インバス、テレビ、クーラー、セーフティーボックス完備。全室WIFI無料接続可能。

海を一望できる円形のレストランでは、地元の野菜をふんだんに使った料理をお手頃な値段で楽しめる。



03



04

Dive into "OGAN", Iriomote Island
2012 Early Summer [Iriomote Island]



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.unarizaki.com/iriomote/>

関連情報HPへ